

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
 (仮称)デンケン・ハイデンタル株式会社吉祥院新社設計画

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.3</b>	0.15	-	<b>3.3</b>
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-
1.2 遮音						3.8	0.40	-	-
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能					Dr=45	5.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.6</b>	0.35	-	<b>2.6</b>
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-
1 室温						3.0	0.38	3.0	-
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-
3 ソーン別制御性						3.0	0.38	-	-
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.0</b>	0.25	-	<b>2.0</b>
3.1 屋光利用						1.8	0.30	-	-
1 屋光率				●自然	A(全国版準用)	1.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口						-	-	-	-
3 屋光利用設備				●自然	B(推奨内容)	3.0	0.40	-	-
3.2 グレア対策						1.0	0.30	-	-
1 屋光制御				●自然	B(推奨内容)	1.0	1.00	3.0	-
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-
<b>4 空気質環境</b>						<b>4.0</b>	0.25	-	<b>4.0</b>
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆採用	4.0	1.00	3.0	-
4.2 換気						3.3	0.30	-	-
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮					汚染源のない方位かつ各種排気口と6m以上離れている	4.0	0.33	3.0	-
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-
2 喫煙の制御					全館禁煙	5.0	1.00	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.6</b>	0.40	-	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画				●大切	D(独自基準)	3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも	C(独自加点)	5.0	0.33	3.0	-
2 リフレッシュスペース					2.7m以上 執務スペースの1%以上リフレッシュスペース+自販機の設置	5.0	0.33	-	-
3 内装計画				●自然	D(独自基準)	1.0	0.33	-	-
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計					維持管理の異なる床材を接近させていない等	5.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					廃棄物スペースの確保等	4.0	0.50	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-
1 躯体材料の耐用年数				●大切	A(全国版準用)	3.0	0.20	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					主要内装仕上げ材の更新間隔20年以上	5.0	0.10	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					主要な用途上位3種の2種以上にB以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-

2.4 信頼性					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.4	0.30			3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30			
1	階高のゆとり			3.9m以上	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率: 0.12	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.36			3.3
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	自生樹の保全等	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー					-	0.40			3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.89	4.1	0.07			4.1
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.12			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.69	4.1	0.58			4.1
4 効率的運用					3.0	0.23			3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価					-	-			
4.1	モニタリング				3.0	-			
4.2	運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.8
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				節水コマ等+省水型機器	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					4.2	0.60			4.2
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	デッキスラブ	5.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	OAフロア、ビニル系床材	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	OAフロア使用	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮				LCCO2排出量抑制	3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮					3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制			適切な量の駐車場スペース確保	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				1.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素量削減に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる